

新たな息吹 SINCE2007



さわの里だより



横浜市立さわの里小学校 学校だより

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sawanosato>E-mail y3sawano@edu.city.yokohama.jp

7月号

心が動き、自ら関わる、

課題に正対し、乗り越えようとする、

そうした子どもを育てたいと思っています

学校長 鈴木 和枝

ロータリーの円形花壇が、
子どもたちは大好きです

給食後の中央階段を帚で掃いていると、一人の子が「ちりとりを持ってきましようか。」と声をかけてくれました。ちりとりは、すぐ近くにあるわけではなかったですし、その子は何か他の用事があったと見えました。でも、そう言ってくれたのです。また、他の日のことですが、廊下で立ち止まり、来校されたお客様と私が話をしていたときのこと。一人の四年生が、ちょうどその脇を歩いてトイレに行こうとしていました。その子は「端を失礼します。」と言い、私たちに少々会釈をして歩いていきました。

もちろん、全員が全員自然にこうした言葉を口にしているわけではないのですが、このような言葉、姿の発現は、さわの里小の子どもの特色であるように感じます。先日もある外部講師の方がおっしゃいました。「初めて会った人を気持ちよく温かく受け入れることができる子たちですね。私はとてもうれしかったし、一緒にやっていて楽しかったです。」と。子どもたちは、ごくごく自然にふるまっているのですが、人に対して温かく、困っている人などを見ると声をかけ、自分にできることをしようとする・・・そうした子たちが多いです。共感的な感性の育ち・・・とでも言うのでしょうか。うれしいことです。

しかしながら、子どもたちを見ていて、次のようなことも感じます。それは、すぐにわからないこと、ちょっと難しいこと、今まで経験したことがないこと・・・そうしたことに「正対する」、「向き合う」姿勢をもっと育てたいということです。すぐにわからないことでも、頭の片隅にずっとそれを置いておいて、こだわって考え続ける、考え続けているから「あっ！」と心が動く、やってみようとする、あきらめずに壁を乗り越えようとする・・・そうした姿勢の育ちを期待したいと思うところがあります。

このような学びの意欲を育てるのは、「自分の思うようにならない」という経験、そして「自分の思うようにならないこと、すぐにはできないことでも、『いつかはできる』と思いや願いをもち、考えて考えて、さらに自分だけでなく友達や周りの人とも一緒にやることで、壁は乗り越えられるのだという心もちになる」という経験ではないかと思います。それを経験したことがあればあるほど、きっと耐性も育ち、粘り強く考える人、さらには自分の思いや願いを自分の言葉で伝え合い、協働できる人になるように思います。

本校では、1学期の間、特に生活科や総合的な学習の時間で、自分や自分たちを取り巻く「人、もの、こと」に関わってきました。その中で、自分たちの思い通りにはならないことがあればあるほど、課題（壁）が明確になり、それを何とかして乗り越えようと「あっ！こうすればよいかも！」と子どもたちは思考を働かせていたと思います。そうした学びこそが、ほんとうに楽しい学びであり、「よりよく生きる力（資質・能力）」を育てる学びと捉え、本校は取り組んでいます。あまりにも高く厚い壁は、越えようという意欲をそぎ、あまりにも簡単に乗り越えられる壁は、壁にはなりません。子どもはその一人ひとりが有能な学び手です。子どもが「頑張れば乗り越えられるのではないか。よし！越えたい。」と思うような壁を仕立て、学びの環境を創るのは、私たちの仕事です。ですから、一人ひとりの子どもが「自分は何かを乗り越えた」という実感をもって、夏休みを迎えてほしいです。さらに21日から始まる夏休みには、自分のめあてをしっかりと持ち、夏休みだからこそ取り組める活動、課題の壁に果敢に挑んでほしい。そう思う今日です。